

氏名： 館 かおる  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系／ジェンダー研究センター  
職名： 教授  
学位： 文学修士（1975 お茶の水女子大学）  
専門分野： ジェンダー研究  
E-mail： tachi.kaoru@ocha.ac.jp  
URL： <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

#### ◆研究キーワード / Keywords

ジェンダー／規範と制度／東アジア／Web 世界／教育  
Gender / Norm and System / East Asia / World Wide Web / Education

#### ◆主要業績

総数（5）件

- ・館かおる「『満洲グラフ』にみる女性たちのフォトモンタージュ」『満洲グラフ』第15巻 2009年12月 145－157頁
- ・館かおる「法学とジェンダー研究の邂逅」フランシス・オルセン 寺尾美子訳『法の性別』東大出版会 2009年9月 261-264頁
- ・Y. Masunaga, N. Oyama, C. Watanabe, K. Itoh, K. Tachi and Y. Miyama: SERPWatcher: A SERP Mining Tool as a Novel Social Survey Method in Sociology, Database Systems for Advanced Applications, LNCS 5982, DASFAA2010 Proceedings, Part II, Springer LNCS 5982
- ・館かおる・吉沢寿香・土野瑞穂（共著）「福井県における「女性活躍社会」推進の取組とワーク・ライフ・バランス―「ふくい女性ネット」参加者調査から―」『近未来の課題解決を目指した実証的科学研究推進事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」2009年度報告書』255-276頁 2010年（5月）
- ・エレーヌ・ランジュバン＝ジョリオ「キュリー家の流れを汲む日本の女性研究者 湯浅年子」（講演記録編集）及び解題執筆『ジェンダー研究』13号 2010 67－76頁

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

1. 21世紀COEプログラムとして展開してきた「テクノロジーとジェンダー」の研究を科学研究費補助金（B）「社会科学の新しい研究方法論としての統合型ウェブマイニング環境の開発研究」とリンクさせ、SERPWatcherの実相に参加。「第15回先進応用のためのデータベースシステムに関する国際会議」でExcellent Demonstration Awardを受賞。今後は具体的事例を取り上げ、ジェンダー研究の方法論ツールとしての有効性を検証する。
2. 平成21年度から開始した、近未来事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」に参加し、福井県を対象に県と企業が連携して設置した女性ネットワーク事業「ふくい女性ネット」の研究調査を行った。
3. 「満洲研究」にジェンダー分析の導入を志向すべく『満洲グラフ』の刊行に関与し、「『満洲グラフ』にみる女性たちのフォトモンタージュ」をまとめた。
4. 学内科研で、国際的なジェンダー主流化政策について、研究会、セミナー、国際シンポジウムを開催した。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

1. <ジェンダー研究センター>の事業（大学院博士前期課程科目提供）「国際社会ジェンダー論」「同演習」の講義として、菅野琴（元駐ネパールユネスコ代表）を中心に「ユネスコのジェンダー主流化政策とジェンダー平等のための活動」などのセミナーや公開講演会「高等教育におけるジェンダー平等と「政治・政策領域」への進出」を主催した。また、アジア工科大学院大学への派遣と受け入れ研修を行い、その内容を『特別教育研究経費（国際人材育成）実施報告書』（141 - 148 頁）2010年3月刊に掲載した。

2. <授業、論文研究指導>は、<学部>「文理融合りベラルアーツ テクノサイエンスのジェンダー・ポリティクス」、<大学院前期課程>「ジェンダー基礎論」「同演習」「開発・ジェンダー論特論」、「国際社会ジェンダー論」、「国際社会ジェンダー論演習」<博士後期課程>「ジェンダー史論 I」「ジェンダー学際研究論文指導」を担当。

修士論文「朝鮮人強制連行・強制労働と炭鉱「慰安所」制度—北海道における石炭産業関連資料を中心に—」、博士論文「韓国人ニューカマー女性の移住要因とエスニック・ビジネス—グローバル化を生き抜く女性たちの戦略—」の主旨指導教員と主査、「中国・北京市における家政サービスの生成と展開—再生産労働の再編成と農村—都市移動の〈回路〉—」、「青年期の身体像と食生活行動—日常知と学校知からの家庭科教育の検討」、「中国女性の二重負担の問題—『女よ家に帰れ』キャンペーンを中心に—」の副査を務めた。

## ◆研究計画

第1に、21世紀COEで開拓した「科学・医療・技術」領域のジェンダー研究という新領域をさらに拓くことを展望し、社会科学の方法論的ツールの開発を行い、ウェブ世界の「ジェンダー」の様相の解明に務めている。

第2に、福井県を調査対象として、ロールモデルの視点からワーク・ライフ・バランスの研究調査を行っている。

第3に、「満洲」というフィールドにおいて、コロニアル・モダニティやコロニアル・サイエンスのジェンダー分析を試みることも継続している。

## ◆メッセージ

ジェンダー研究は、女性学の成立から数えても、まだ40年の歴史にも満たない新しい学問研究です。しかし、ジェンダー研究は、これからの世界が、20世紀システムでは立ち行かなくなったことから生まれてきました。お茶の水女子大学には、日本の大学で初めて設立された、ジェンダー研究センターという場もあります。21世紀の世界で生きるあなたたちが、ジェンダー研究を学び、新しい世界を拓いて行くことを期待しています。